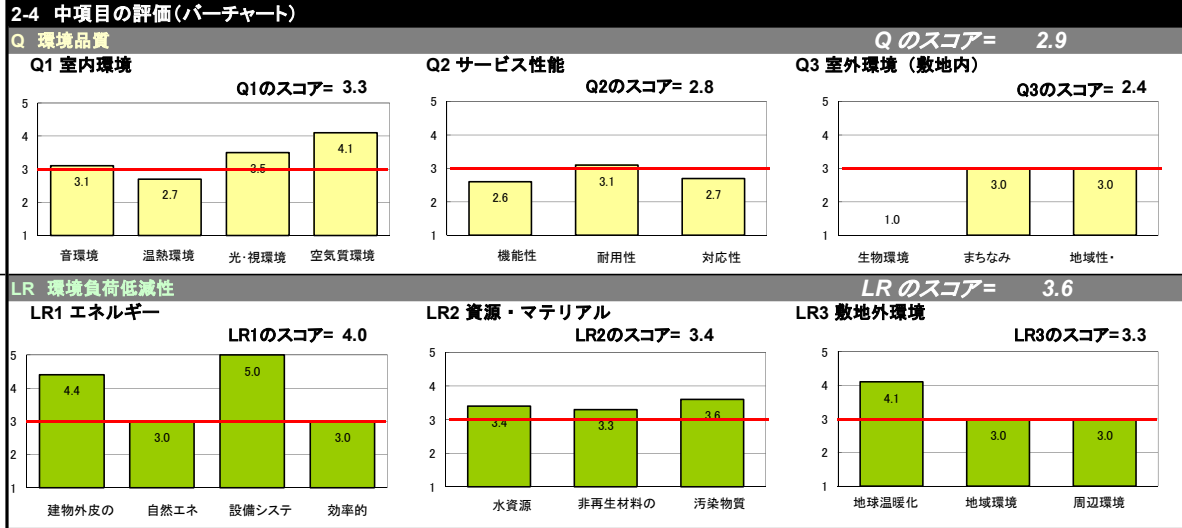
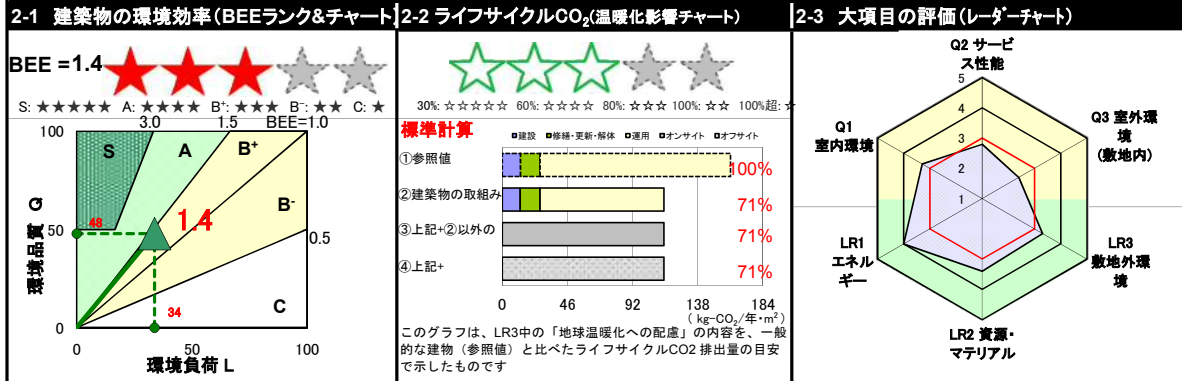


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ABホテル田原	階数	地下0階、地上10階
建設地	愛知県田原市田原町長四分1-38	構造	RC造
用途地域	市街化区域、商業地域、防火地域	平均居住人員	110 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,935 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年11月21日
敷地面積	1,965 m <sup>2</sup>	作成者	SL石川
建築面積	363 m <sup>2</sup>	確認日	2017年11月24日
延床面積	2,517 m <sup>2</sup>	確認者	SL石川



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">10.1 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用建物全体・共用部(廊下・宿泊部) 住居・宿泊部分						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										2.9 3.3
<b>Q1 室内環境</b>										3.1
<b>1 音環境</b>										3.1
<b>1.1 室内騒音レベル</b>										3.0
<b>1.2 遮音</b>										3.6
1 開口部遮音性能				建具表より、T-2。	3.0	1.00	5.0	3.0	0.30	0.30
2 界壁遮音性能					-	-	3.0	3.0	0.20	0.20
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				仕上げ表 RCスラブにタイルカーペット	-	-	3.0	3.0	0.20	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				仕上げ表 RCスラブにタイルカーペット	-	-	3.0	3.0	0.20	0.20
<b>1.3 吸音</b>										3.0
<b>2 温熱環境</b>										2.7
<b>2.1 室温制御</b>										3.0
1 室温				M-01 機械設備特記仕様書	3.0	0.38	3.0	3.0	0.57	0.57
2 外皮性能					3.0	0.25	3.0	3.0	0.43	0.43
3 ソーン別制御性				K-02~06 客室ごとに空調制御可能	5.0	0.38	5.0	5.0	-	-
<b>2.2 湿度制御</b>				湿度制御無	1.0	0.20	1.0	1.0	0.20	0.20
<b>2.3 空調方式</b>					3.0	0.30	3.0	3.0	0.30	0.30
<b>3 光・視環境</b>										3.5
<b>3.1 昼光利用</b>										3.0
1 昼光率				資①昼光を効果的に利用できる開口を設定	3.0	0.60	5.0	5.0	0.60	0.60
2 方位別開口					-	-	3.0	3.0	0.40	0.40
3 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0	3.0	0.30	0.30
<b>3.2 グレア対策</b>										3.0
1 昼光制御				共用部:スクリーン・底、客室:カーテン	3.0	1.00	3.0	3.0	1.00	1.00
<b>3.3 照度</b>				床から800で100lx確保	3.0	0.15	3.0	3.0	0.15	0.15
<b>3.4 照明制御</b>				E-30~32 客室はベッド単位で照明制御可能	3.0	0.25	5.0	5.0	0.25	0.25
<b>4 空気環境</b>										4.1
<b>4.1 発生源対策</b>										4.0
1 化学汚染物質				仕上げ表:規制対象外建材の全面利用	4.0	1.00	4.0	4.0	1.00	1.00
<b>4.2 換気</b>										4.6
1 換気量				資料②:客室)基準法*1.4倍以上確保	3.0	0.50	5.0	5.0	0.33	0.33
2 自然換気性能				資料②:客室)基準法自然換気量が床面積*1/15以上確保	3.0	0.50	5.0	5.0	0.33	0.33
3 取り入れ外気への配慮				OF北東、VF南東と異なる面に離隔距離最低6m以上。	3.0	0.50	5.0	5.0	0.33	0.33
<b>4.3 運用管理</b>										5.0
1 CO <sub>2</sub> の監視					-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				建物内全面禁煙。	5.0	1.00	5.0	5.0	1.00	1.00
<b>Q2 サービス性能</b>										2.8
<b>1 機能性</b>										2.6
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										3.0
1 広さ・収納性				シングル12-13㎡。	3.0	0.40	1.5	1.5	0.60	0.60
2 高度情報通信設備対応					-	-	1.0	1.0	0.50	0.50
3 バリアフリー計画				独自	3.0	1.00	2.0	2.0	0.50	0.50
<b>1.2 心理性・快適性</b>										3.5
1 広さ感・景観 (天井高)				仕上げ表:客室天井高2550-2700	3.0	0.30	3.5	3.5	0.40	0.40
2 リフレッシュスペース					-	-	4.0	4.0	0.50	0.50
3 内装計画					3.0	1.00	3.0	3.0	0.50	0.50
<b>1.3 維持管理</b>										4.0
1 維持管理に配慮した設計				防汚性の高い建材の利用、風除室2枚の建具間隔1m以上。	4.0	0.50	4.0	4.0	0.50	0.50
2 維持管理用機能の確保				3階メンテナンス室を清掃用具管理室とし、排水経路確保。	4.0	0.50	4.0	4.0	0.50	0.50
<b>2 耐用性・信頼性</b>										3.1
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>										3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				(構造計算概要書)	3.0	0.80	3.0	3.0	0.20	0.20
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20	3.0	3.0	0.20	0.20
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										3.6
1 躯体材料の耐用年数				② 外装タイル仕上、40年	3.0	0.23	3.0	3.0	0.23	0.23
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					5.0	0.23	3.0	3.0	0.09	0.09
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09	3.0	3.0	0.08	0.08
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				主に塩化ビニル管を利用	3.0	0.15	4.0	4.0	0.15	0.15
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.23	3.0	3.0	0.23	0.23
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.19	3.0	3.0	0.20	0.20
<b>2.4 信頼性</b>										3.0
1 空調・換気設備					3.0	0.20	3.0	3.0	0.20	0.20
2 給排水・衛生設備					3.0	0.20	3.0	3.0	0.20	0.20
3 電気設備					3.0	0.20	3.0	3.0	0.20	0.20
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20	3.0	3.0	0.20	0.20
5 通信・情報設備					3.0	0.20	3.0	3.0	0.20	0.20

<b>3 対応性・更新性</b>			3.0	0.29	2.6	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			-	-	2.2	2.2	-	0.50
1 階高のゆとり			-	-	-	-	-	0.60
2 空間の形状・自由さ		資料② 壁長さ比率	-	-	-	3.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり			-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性	②		3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	独自③	緑の量の確保:配置図(風向緑地図)	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	-	3.6
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>lm</sub> =0.86	4.4	0.30	-	-	-	4.4
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネルギーweb計算による	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.21	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自①	ビニル床材、タイルカーペット、インターロッキング*	5.0	0.21	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		↑資料③エコマーク品利用	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自①		3.0	0.25	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		資料④ 壁紙接着剤	4.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.68	-	-	-	-
1 消火剤			-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)		資料⑦ 断熱材ODR0	4.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒		資料⑥ 新冷媒R-32利用	3.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:71%	4.1	0.33	-	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		資料⑤ 気象データ:愛知県伊良湖	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自		3.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音	独自		3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制			-	-	-	-	-	-
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制			3.0	1.00	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-

# 重点項目スコアシート

(仮称)ABホテル田原

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.1</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:10.1%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

## ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。
Q1 室内環境	ホテル客室内の居住性を考慮し、遮音性確保や採光による昼光率向上を実現した。
Q2 サービス性能	客室利用客のみでなく、建物維持管理作業従事者への配慮も行っている。標準的な維持管理仕様ではあるが、配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスしやすさを考慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内植樹など緑地計画は、必要駐車場量や建物配置計画による制約の中で、量の確保と共に、地域植物の採用に配慮した。一方、建物高を生かし、排熱は建築物の高い位置からの放熱に努めた。
LR1 エネルギー	建築外皮への熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また、各客室での1次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選定に努めた。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含まない建築材料、再利用可能な部材、リサイクル材などを積極的に採用した。
LR3 敷地外環境	駅前の公共施設や福祉施設が並ぶ地域である。開放的な広場を設置し、駅を中心に通行者にも開けた建物を目指した。敷地周りの歩道整備とあわせて、広場やアイストップのシンボルツリー、ベンチを設け、敷地の一部を歩道共有できるように計画した。用途上、廃棄物の保管スペースや駐車台数の確保を行うなど、日常の迅速な顧客対応に配慮した動線を検討した。
その他	